

拠点

拠点2 子どもの生活研究所（保育）

1. 運営方針・目標

嬉泉保育部門は、法人の理念のもと「子どもの幸せと心の豊かさを育むために『その子らしさ』を尊重し、子どもを中心に据えた保育を考える」ことを目指す。職員は子どもとの関わりの中で『その子らしさ』への気づきを得、他職員との対話を通して理解が深められるようにする。これを実現するため、管理者はそれぞれの強みを活かして保育部門内を横断的に行き来し、その機会を作っていく。

法人の経営方針である「明確なコーポレートガバナンスによる持続可能な法人経営」については、児童福祉法等の関係法令を遵守し、保育所保育指針や世田谷区保育の質ガイドラインに基づいた事業運営がなされているか自己評価を行っていく。

以上の運営方針のもと、保育部門は下記の目標を定める。

1) 保育観の確認と共有

定期的に行っている場長、管理者等による保育会議において、「子どもの保育で何を大切にするか」という価値観の確認と共有を行い、保育ビジョンや将来の方向性についての検討を重ねる。また、これを育成担当者となる職員にも広げていく。

2) 保育部門内の連携強化

運営管理や人材育成、委員会活動等における各園の取り組みについて情報共有し、必要な事柄の検討や企画等を行い、サービスの質の向上に努めていく。

3) 他拠点・事業所との連携

法人執行本部の下、他拠点・事業所との連絡を密にし、経営会議、園長会の他、各種係や委員会活動等を通じて、情報共有、事業の協力を行っていく。また、子どもの生活研究所にて開催される看護師会等に参加し、情報の共有、必要な事柄の検討や企画等を引き続き行っていく。

4) 感染症予防対策の継続

新型コロナウイルス感染症の発生を受けて世田谷区内の関係者にて作成された、「新しい日常における保育」を基に、各園の実情に応じた感染症予防対策を引き続き行っていく。

5) 地域支援の継続

保育所としての社会的役割を果たすため、子育て家庭への支援、近隣の老人施設や学校との世代間交流等、コロナ禍において実現可能な形を模索していく。

6) 同僚性の構築

昨年度のスプレッドチェックの結果を受け、今年度は「職員が互いに支え合い、高め合っているような協働的な関係」がより構築されるよう、互いの仕事を知る機会や考えを伝え合う機会を設けていく。

7) 第三者評価の受審と内容の見直し

今年度は第三者評価を受審し、運営管理や保育の質が高められるよう、その内容等の見直しを行っていく。また、帳簿類については記録する意味やその必要性を改めて職員と共有し、日常的に整備に努める。

8) 採用活動と職員の定着

国や都、世田谷区による保育施策に準じ、職員の処遇改善に努めると共に、法人採用係と協働して人材確保等に努める。

2. 各園の課題と取り組み

1) すこやか園

職員が主体的に業務に関わっていくことを目標とし、業務の意味や意義を考えることを大事にする。保育においては、子どもへの理解を深めるために自分自身を理解することや『その子らしさ』を考えていく機会を多く持ち、職員がこの法人の考えに良さや手応えを感じ、同僚と分かち合う気持ちが育つような実効性の高い工夫を見出していく。

2) 宇奈根なごやか園

保育及び人材育成については、忙しい日々の中でも「子どもの興味関心や意欲がどこに向か

っているかを捉えること」、「子どもの気持ちに保育者として想いを馳せること」が大切にできるよう、グループ打合せや職層別の内部研修を行っていく。また、子どもの発達や特性を知り、その子らしさへの理解が深められるような機会を作っていく。

3) 鎌田のびやか園

昨年度、法人の支援テーマである「アセスメント（利用者理解）」に取り組む中、保育会議における保育ビジョンの構築を目的とした話し合いを通して、当園の運営管理面を様々な視点から見つめ直した結果、子どもや保育者間の相互理解を目的とした「コミュニケーション（交流）」が不足していることに気付かされた。そのため今年度は、子どもや職員間の相互理解をさらに深めるため、「コミュニケーション（交流）」の方法やその機会を増やす新たな取り組みを行っていく。

3. 月間・年間予定

別紙の通り

4. 職員体制

組織図を添付

5. 職員研修

人材育成については、管理者が保育部門内を横断的に行き来し、交流研修（副園長・主任会、サッカー教室、DIY）を通して価値観の共有がなされるよう、その機会を提供していく。

また、職員個々の育ちを支え、そのエンパワメントが促進されるよう、法人キャリアパス制度を活用しながら、次のような職員研修を行っていく。法人職員としての基礎的な生活能力や態度、対人関係能力が備わっていくよう、日常業務を通して学べる機会を作っていく。他に、法人の支援方針である「受容的交流の立場に立った利用者支援」への理解が深められるような学びの機会、それぞれの専門性を高めるために必要な外部研修に参加する機会を作り、職員が自己研鑽に努めていけるようにする。職員が学んだことについては、互いの専門性への理解や同じ目的に向かって働く意義を見出していけるよう、他職員と共有する場を設けていく。

1) 事業所内研修の実施

- ①救急救命講習
- ②人権擁護、虐待防止、事故防止、苦情対応、個人情報保護、災害対策に関する研修
- ③感染症予防対策に関する講習（嘔吐処理、新型コロナウイルス等）
- ④新人、異動職員向け研修
- ⑤出張研修に参加した職員による復命講習
- ⑥その他

2) 保育部門内研修の実施

- ①交流研修
 - ・副園長、主任会：「子どもの保育で何を大切にするか」という価値観の確認と共有
 - ・サッカー教室：子どもの運動機能や神経系の発達を育むことを目的としたサッカー教室
 - ・DIY：備品等の修繕や子どもの木育活動の実施
- ②その他

3) 法人研修への参加

- ①全体職員研修
- ②療育合宿研修
- ③職層別研修
- ④その他

4) 外部研修への参加

- ①管理職層の運営者・育成者研修
- ②世田谷区保育課研修1（保育キャリアパスに関わる分野別研修：各15時間）
乳児保育研修、幼児保育研修、障害児保育研修、子育て支援研修
- ③世田谷区保育課研修2（ミドル研修、マネジメント研修）
- ④世田谷区保育課研修3（保育、保健、食育、栄養関係）

- ⑤世田谷区要保護児童支援協議会主催の研修（年2回程度）
- ⑥世田谷区民間保育園連盟主催の研修（年2回程度）
- ⑦砧エリア保育ネット主催の研修（年2回程度）
- ⑧全国私立保育園連盟主催の研修
- ⑨社会福祉法人日本保育協会主催の研修
- ⑩東京都民間保育園協会主催の研修
- ⑪東京都社会福祉協議会主催の研修（キャリアアップ研修 eラーニング等）
- ⑫その他必要に応じた各種研修会

6. その他（建物改修、設備、備品等購入）

1) すこやか園

- ・全体：パソコン購入（保守付き）（職員質向上費加算）
園児用避難車購入（施設機能強化推進費）
- ・本園：園庭植栽整備、1階2階保育室床張り替え
- ・分園：1階保育室床張り替え

2) 宇奈根なごやか園

- ・テラス及び窓枠の修繕
- ・事務机及び畳購入（職員質向上費加算）
- ・園児用避難車購入（施設機能強化推進費）
- ・0、2歳児用椅子購入
- ・パーテーション購入
- ・厨房冷蔵庫購入

3) 鎌田のびやか園

- ・特になし。

4) 三園共通

- ・保育における備品（玩具や絵本等）の購入

別紙(事業計画書関係)

年間行事実施計画(子どもの生活研究所[療育・保育])

項目 月	行		事		職員研修・職員会議等		災害訓練		健康管理 衛生管理		その他	
	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容	日	内 容
4月				入園式 誕生日会月1回		職員会議週1回・子研 厨房会議・看護師会月1回		防災訓練 消火訓練		衛生委員会		経営会議 クローバー運営会
5月								防災訓練 消火訓練		衛生委員会		経営会議 クローバ運営会
6月								防災訓練 消火訓練		健康診断・内科健診 衛生委員会		園長会 クローバー運営会子研委 員会
7月		施設内宿泊体験						防災訓練 消火訓練		健康診断 衛生員会		経営会議 クローバー運営会
8月		施設内宿泊体験				夏季療育合宿		防災訓練 消火訓練		健康診断 衛生委員会		経営会議 クローバー運営会
9月								防災訓練 消火訓練		健康診断 衛生委員会		理事会、経営会議 クローバー運営会
10月		秋祭り 施設内宿泊体験						防災訓練 消火訓練		健康診断 衛生委員会 内科健診		評議員会、経営会議 クローバー運営会
11月		嬉泉バザー						防災訓練 消火訓練		健康診断 衛生委員会		経営会議 クローバー運営会
12月		クリスマス会 施設内宿泊体験						防災訓練 消火訓練		衛生委員会		理事会・評議員会 経営会議
1月		もちつき 施設内宿泊体験						防災訓練 消火訓練		衛生委員会		経営会議 クローバ運営会
2月		節分						防災訓練 消火訓練		衛生委員会		経営会議 クローバー運営会
3月		ひなまつり 卒業遠足		卒園式 施設内宿泊				防災訓練 消火訓練		衛生委員会		理事会・経営会議、クロー バー運営会

事業拠点組織図(子どもの生活研究所[療育・保育])



